

# HOSHIKUZU

1988 Mar. & Apr. No. 159



よみがえった双眼鏡

仕掛人

J. K

作業した人

手仕事屋

Tu氏

またまたいつものパターンで事は始まった。

いつだったか、天文台にほこりにまみれた、いかにも古そうな双眼鏡がころがしてあった。口径は12cm、20Kg以上の重さがありそうなやつだった。誰も触ろうともしないし、話題にすらなっていないことが不思議だった。

一部のメンバーの間で以前から欲しい欲しいと言われていたタイプの本格的な双眼鏡である。何故こんなものが転がっているのか、聞きたくなるのが人情だとおもいませんか？

J. K氏が答えて言うには、『熊大理学部にあったやつなんだが、使われなくなって永いこと放置されていたんだ。今度、理学部を改築することになって置き場にも困るので、天文台で使うのならと言うことで貰ってきたんだ。』とのこと。『じゃあ、整備して使おうよ。誰もやらないんだら僕が持って帰って整備するけど……』と、私。

これ程の双眼鏡だから、もう誰かが予約しているものと私は思っていた。

ところが、『ああ、そうしてよ。ただし、修理が終わったら天文台に持ってくるんだぞ。』という返事。これは少し様子が変だ。あわてて双眼鏡を見ると、銅鉄製の対物フードさえ潰れているし、対物レンズも様子がおかしい。接眼部など全く動かないときている。(しまった、こんな物を引き受けては大変だ!) 思わず口ごもってしまったのがいけなかった。

『じゃ、たのんだよ。相当傷んでいるから壊してしまえばいいさ。どうしたってかまわないから。』

この夜から数カ月の間、双眼鏡はわが家の賓客として滞在を続けた。その分解が進むに連れて、居間は部品達の侵略を受け、破損力所等のために分解に手間取ることもあって、家族の非難の声は益々高くなった。

フードの取り外し、鏡室おさえリングの取り外し、レンズ間に入れる鍍箔の代用品づくり、接眼部の錆落としと分解、プリズム部の調整等かなりてこずったなあと思う。特別に治具を作ってどうにかできたところもあった。途中で何度か投げ出しそうになった。

レンズのクリーニングが一応終わった頃から、先が楽しみになってきた。思ったよりもかなり像

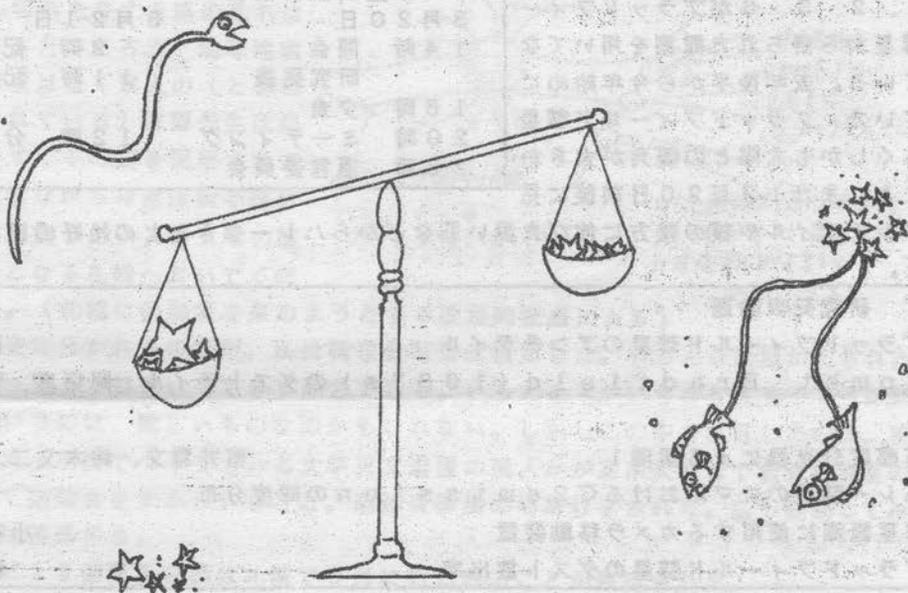
が良さそうなのだ。残るは光軸調整である。年代物で、これも壊れかけの三脚や架台を、どうにか補強して置いて、星を見る。窓の手摺にのせかけながら覗いては調整した日もあった。双眼の軸が合わないのが一番調整に手間取った。二度、三度と分解組立を繰り返すうちに、ようやく他人に見せられる様な像が得られるようになってきた。

そうなると、後は留まるところを知らない。架台も、三脚までも、一式を作り上げてしまった。

暫く一人で楽しんでいても良さそうなのだが、『いつまでここに置いておくの?、!!』の声に追われるかのごとく、よみがえった双眼鏡は、天文台へと帰っていったのである。

『この星像は端までシャープだ、視野の端でもトラベジウム（オリオン大星雲にある四重星）がキチンと分離している。×××××の25倍は、中心は良いけど端はちょっとね...』と、J. K氏。まともに買えば今でも何十万もする双眼鏡。さすがに『腐っても鋼』と言うことでしょうか。でも、私の腕も誉めて欲しいような気がします。そう思いませんか？

そうそう、この双眼鏡皆さんもぜひ覗きにきてください、天文台へ!!



3月11日、春の始まりを思わせるぼかぼか陽気の日、バイクと一緒に私はふらりと旅にでかけたのであります。・・・そして熊本に帰ってきたのは桜も咲きそろった4月5日。この間、26日、別に遊びほうけてきたわけではありません。ちゃーあんと、「天文のお仕事」もやってきたんですから。それで今月号と来月号と2回にわけて、その報告をしておきたいと思えます。あっちゃこっちゃで宣伝も兼ねて「県民天文台」の名前を使わせてもらいましたから。それでは

バイクの旅 第一弾

第18回彗星会議報告

高田ゆういち

第18回彗星会議は3月20、21日の両日、栃木県は宇都宮市で開かれた。残念でならなかったのは、金環食のすぐ後だったことで、小笠原海上の日食ツアーに出かけた人が多かったらしく、関西方面の参加者が目立って少なかった。(去年の彗星会議で同行した小林寿郎氏も小笠原へ出かけるため、今回は私が単身、宇都宮に向かうことになった。)

関西からの出席者が少なかったとはいえ100名を越える参加者があり、各種の研究発表、それと東北大学教授齊藤尚生先生の特別講演など非常に充実したものになった。

会議の日程と研究発表は以下の表の通りです。

まず、研究発表のほうから見てみると、1、2、3、6がブラッドフィールド彗星から得られた観測を用いてなされている。去年後半から今年始めに見えていた、ブラッドフィールド彗星は明るくしかも太陽との離角が大きかったこと、また12月20日前後に見えたアンチテイルや核の後方に伸びた黒い筋などからハレーなきあとの絶好の観測対象になった。

3月20日		3月21日	
14時	開会	9時	記念講演会
	研究発表	11時	記念写真撮影
18時	夕食		分科会
20時	ミーティング	12時	分科会報告
23時	運営委員会		閉会

研究発表論題

- |   |                                 |               |
|---|---------------------------------|---------------|
| 1 | ブラッドフィールド彗星のアンチテイル              | 西岡公彦          |
| 2 | Comet Bradfield (1987s) のダストテイル | 岡拓真、菅原賢、川崎寿則  |
| 3 | 高感度分光器による観測1                    | 直井雅文、鈴木文二、栗原浩 |
| 4 | ハレー彗星のコマにおけるC2 emissionの輝度分布    | 菅原賢           |
| 5 | 彗星観測に使用するカメラ移動装置                | 小石川正弘         |
| 6 | ブラッドフィールド彗星のダスト放出率              | 秋澤宅樹          |

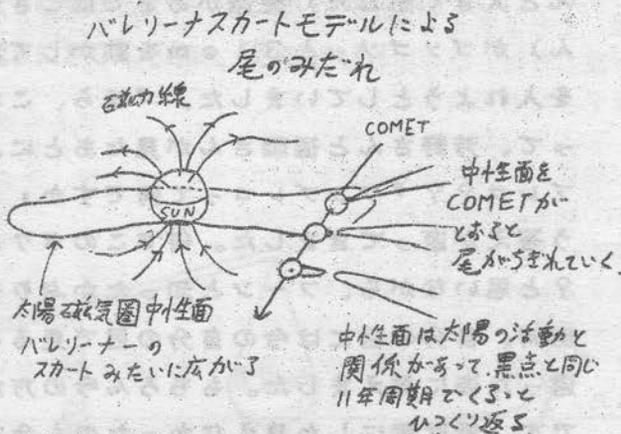
観測資料の集め方で、おもしろいと思ったのは2の「ブラッドフィールド彗星(1987s)のダストテイル」である。ダストテイルを解析するための写真の半分ぐらいを天文雑誌に掲載された読者の写真から利用している!おそらく、これらの写真を撮影した人は「いい写真が撮れたから雑誌に応募してみようか」ぐらいの気持ちで送っただけで、よもや自分の写真が研究の資料となるとは思はなかつただろう。しかし、それなりの人が数をそろえてまとめれば、十分な研究ができる。そのいい例となっていた。

5は彗星を点像に撮影する機器の製作発表である。彗星に限らず移動天体をそのまま撮影すると恒星は点像に写るが、目的の天体は流れて写る。ハレー彗星の撮影に盛んに使わ

れたメトカーフ法は移動天体に合わせてガイドする一つの方法だが、仙台市天文台の小石川氏は接眼部でカメラごと移動させる機器を製作された。(カメラはパルスモーターで自動的に移動する)

研究発表のあと富田弘一郎先生が「IHWの日本からの報告が非常にすくなかった」といわれたのを受けて、斉藤先生が「マチュア天文家はもっと学術的に貢献できる」としきりに力説された。すなわち・・・日本のアマチュア天文家は写真撮影の分野においては特にハイレベルなものをもっているにもかかわらず、せいぜい雑誌に応募するぐらいでそとに出したがない。雑誌に登場するのもその一部で大部分は埋もれてしまっている。我々みたいな研究者はそんな写真を手にいれたがっている。特に新彗星の様な突発的な現象に対しては、アマチュアの観測による所が大きい。これからいろんな写真集をなどを出版されるところがあれば、海外の研究者が利用しやすいよう一部分英訳してほしい。など話された。

翌日は斉藤先生の記念講演「太陽風による彗星の尾の乱れ」から始まった。彗星の太陽と反対側の方にたなびくタイプ1の尾(イオンテイル)を観て、我々はあれは太陽風によって太陽の後ろに伸びるんだよといっているが、じゃあいったい太陽風とはいったいなんなのだろう? またハレー彗星で盛んに観測された、蛇行したり途中でちょん切れたりする尾の乱れはどうしておこったのだろう? 地球地磁気が専門で彗星は全く素人の(と御自身では謙遜されている)斉藤先生は非常に分かりやすくその謎を説明されていかれた。残念ながら今回は前半部分だけで、残りを聞きたい人は来年の彗星会議の会場となる札幌へおいでくださいとのこと。(札幌に参加者を集めようとする政治的配慮による)



次は各分科会に分かれるのだが、私は物理分科会に出席した。いろんな話題がだされたがそれほど突っ込んだ話合いもできず残念である。いろんな人がいきなり集まってさ何か話をやれというのは、難しいものなのかもしれない。しかしこの中で注目したのは、東京を中心とした大学間で作っている大学天文連盟の幾人かが東京天文台で最新の彗星の論文をもちいて勉強会をするということ。勉強会参加の呼掛けをされた。私も参加してみたいが東京では遠過ぎる。

会議の終りに19回彗星会議は札幌で6月に行われることが確認された。

以上で会議の報告は終わりです。去年から静岡、宇都宮、札幌と段々北上して行って、熊本からは行きにくくなっていますが、もうすぐすると西日本に回帰してくるでしょう。暇がてら、皆さんも参加されたいと思います。今回、私も会議に参加している人々と(無理矢理?)知合いになってきましたから。そのおかげで私はとんでもない所へバイクと一緒にいくこととなってしまいます。その話は次回の墨屏で。 第一弾 おわり

自分が天文台に初めて行ったときから、はや3年が過ぎてゆきました。熊大天文研究会に入会し、初めて熊本にも天文台があることを知り、クラブの先輩方に天文台へ連れて行ってもらいました。

おー、ちゃんとした部屋があるではないかと思いきや、富士通の、F11-7がありアキナと名命されているではありませんか。ソ？ン？アキナ？という名前をつけているとゆう記事を天文ガイドで読んだことがあるぞ。なーんだ、ここだったんだ。と世間の狭さを感じたのであります。

トン、トン、トンと階段を昇ってゆき、屋根が開閉式の部屋に行くと、そこには雑誌などでしかみたことがなかった大きな（昔はほんと大きく感じた）望遠があるではございませんか。先輩（松下さん）がゴソゴソッと31cmを動かして南方へ鏡をむけて何か天体を入れようとしていました。「ほら、これがソンプレロ星雲」と言って、芳野さんと福岡さんが見たあとに、見せてくれました。ソンプレロ？『ソンプレロって何ですか』と聞くと帽子のことだとうう答えが返ってきました。何でこのボワボワとしたのが帽子なの？と思いながら、フーンと知ったかぶりをしていたのでした。その当時、自分の目には今の自分の目で見ることができるソンプレロと違った姿に見えました。もちろん今の方がずっとよく見えているのです。昔は雲にしか見えなかったのも今では帽子として見ることができました。運営委員会をやっていて気付くことは、望遠鏡をのぞいているお客さんは自分と同じ様には見えないとゆうことです。やはり目に星を見る慣れとゆうのが必要なのでしうようか。

今年は火星の大接近。大接近したときの火星の模様を見るためには事前から目を慣らす必要があります。さあ、今から天文台へ行って目を鍛えましょう。

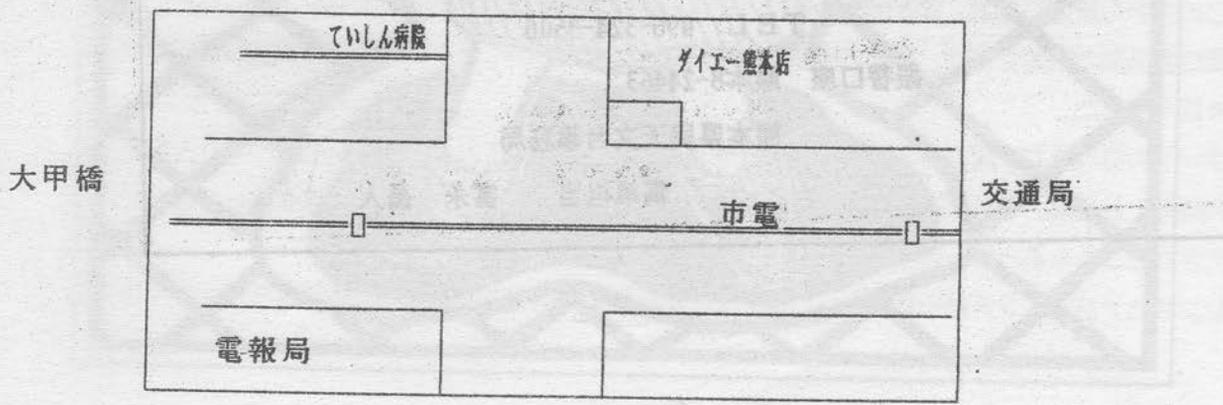
☆ INFORMATION ☆

天文教室を開きます。(初心者用)  
 時 6月5日 日曜日 PM1:30~3:00  
 場所 ダイエー熊本店 4階 オレンジホール  
 内容 天体写真の写し方 ビデオ上映  
 スライド 望遠鏡を使った説明  
 天文なんでもQ&A  
 会費 無料  
 講師 艶島 敬昭  
 日頃、天文台に来られてない方  
 ご参加ください。  
 先着50名様に限り、天体写真プレゼント。  
 参加希望の方は、電話にて申込下さい。

ミザールのモータードライブ(MMD-QZ)を、売ります。  
 在庫処分につき、一台限り、新品です。  
 減速ギヤは、SP型用、別売ギヤによりAR型使用可能。  
 定価 ¥28,000 を 特 ¥12,000 です。  
 お買上の方に、SP型極軸望遠鏡(SP、AR 両方使用可)プレゼント。  
 通信販売もできます。

天文教室とMMD-QZの問い合わせ

TEL 096-364-1187  
 住所 〒862 熊本市大江4丁目2-1  
 ダイエー熊本店専門店街 2F メガネのヨネザワ  
 営業時間 AM 10:00~PM 6:30  
 詳しくは、メガネのヨネザワ ダイエー店 中尾まで



## 編集後記

もうすぐ新学期ですね……あら、あら、あら、という間にゴールデンウィークに突入しようと……今日この頃いかがお過ごしでしょうか。えっ！いかがお過ごしでしょうかどころではない？星屑が届かなかったから天文台がなくなったと思ったですって！それはもうすべて編集委員の責任ですので、まったくどうもすみません。えっ！すみませんですんだら警察はいらない？おまえはもう首じゃ！そうでございますか。ということで、約2年間やってきた星屑編集委員を引退させていただきます。自分が編集をやるときは、いつも発行が遅れたり合併号になったりしてしまって会員の方々に大変ご迷惑をおかけいたしました。この場でお詫び申し上げます。また、記事を書いてくださった方々どうもありがとうございました。これからも星屑を応援してください。

なお、表紙の絵は同じ寮に住む片山さんにかいていただきました。どうもありがとうございました。

熊本県民天文台機関誌「星屑」 1988年3&4月号 通巻159号

発行所 熊本県民天文台 〒861-42 熊本県下益城郡城南町藤山

TEL 0964-28-6060

熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市古京町3番2号 熊本市博物館内

TEL 096-324-3500

振替口座 熊本8-24463

熊本県民天文台事務局

編集担当 富永 昌人